

経営比較分析表

福島県 会津若松地方広域市町村圏整備組合

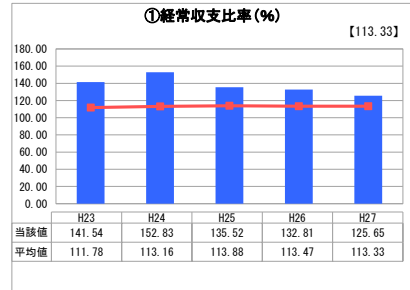
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	用水供給事業	B
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	91.08	93.33	0

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
154,325	232.85	662.77

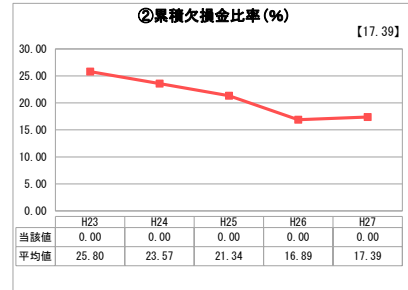
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

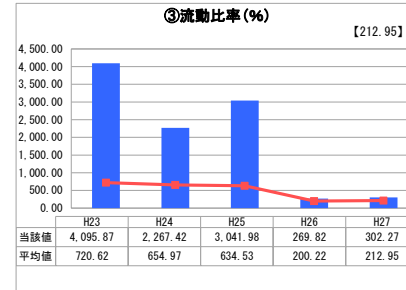
1. 経営の健全性・効率性



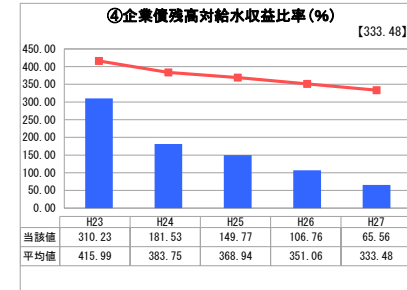
「経常損益」



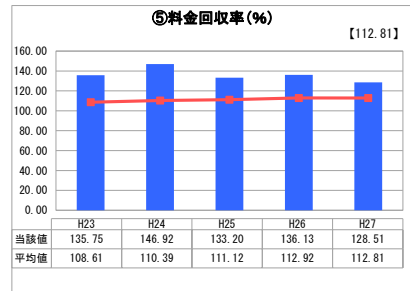
「累積欠損」



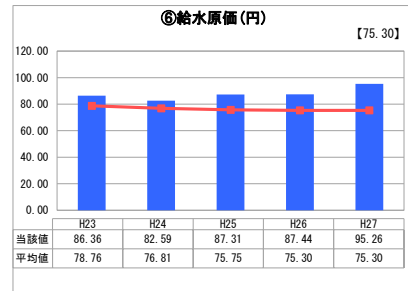
「支払能力」



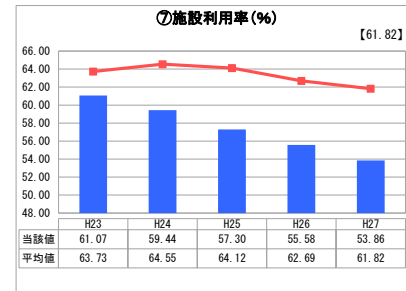
「債務残高」



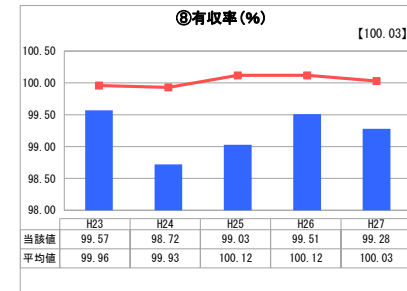
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

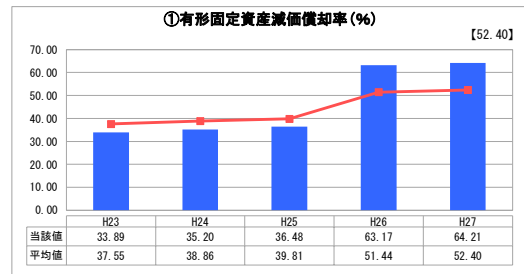


「施設の効率性」

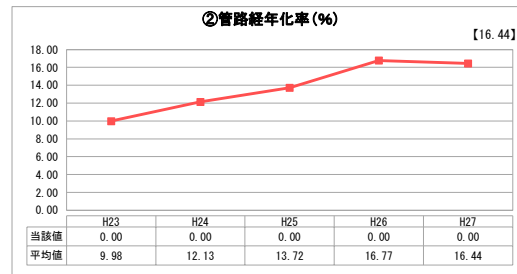


「供給した配水量の効率性」

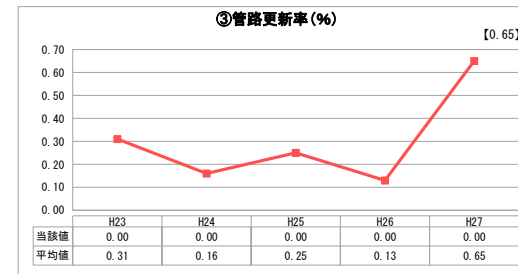
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常利益は黒字で、経営収支比率は、100%を超えており良好といえる。
- ・企業債残高は、年々減少し平成31年度に完済の予定。
- ・流動比率は、100%を超え支払能力は十分といえる。
- ・施設利用率は、景気の低迷や人口減少に伴い、減少傾向にある。

2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産減価償却率は、全国平均を上回っており、施設の老朽化が進んでいる。
- ・管路については、まだ耐用年数に達していない状況にある。

全体総括

- ・概ね、財務内容は健全性が確保されていると考えられる。
- ・施設の老朽化については、今後、アセットマネジメントを活用し、人口減少等の社会情勢の変化に対応した計画的な更新を進めていく必要がある。
- ・管路については、耐用年数に達していないものの、今後、更新へ向けて、方向性を検討していく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。